

民産官学連携による 地域公共交通の効率的構築・維持に向けた 実践的活動と地域貢献機能の充実

研究代表者

和歌山大学経済学部 教授 辻本勝久

ktjapanh@emily.eco.wakayama-u.ac.jp

移動手段の確保における民産官学連携の重要性

住民

- ・地域を一番よく知っている
- ・これまで交通のことは事業者まかせ、行政まかせ
- ・多様な参画可能性(企画、運転、美化、積極乗車等)

交通事業者

- ・厳しい経営環境
- ・採算性の観点から積極的なサービス展開を躊躇
- ・運行のプロであり、実務面のノウハウを有する

基礎自治体

- ・生活交通の問題を認識
- ・財政負担増への懸念
- ・交通計画・交通政策に関するノウハウの不足
- ・公平性の縛り

大学

- ・交通計画・交通政策等において専門性を有する
- ・中立的見地から発言できる
- ・地域と共にありたいと願う

民産官学が、地域の公共交通体系を共に考え、創り、維持し、継続的に改善しながらより良いものへと育てていくような状況を作っていくことが大切

白浜町での取り組み

<目的>

市町村合併後の生活交通確保に向けた基本方針の策定と担い手形成(白浜町生活交通ネットワーク計画)

<具体的には>

- ①白浜地域 ②富田地域 ③日置川地域に分かれて、地域の住民、交通事業者、行政などが参画して、地域にあった交通のあり方を「協議」「熟議」
- ②3つのビジョンをとりまとめて「全町的生活方針」策定
- ③以上のプロセスから、次の交通の担い手を創造

白浜町交通ビジョン・アクションプラン策定委員会

①白浜地域部会

②富田地域部会

③日置川地域部会



白浜町での成果

- ・「白浜町生活交通ネットワーク計画」を策定(H24.3)
- ・策定においては地域部会での議論を重要視
- ・丁寧な議論と「傍観者にならない」議論を実践
(現状とあり方をしっかり討議
要望を汲み取る場にしない)
- ・町民・学生による路線バスの乗降調査を実施し、実態把握力を獲得
- ・今後の生活交通の理解者、担い手の育成を実践できた
- ・本学の計画策定への参画について「歴史的な取り組み」との評価(策定委員会)

バス利用の現状調査 交通弱者に優しい体系を 白浜町 H24.1.26 紀伊民報

地域に合った生活交通システムを考える和歌山県白浜町の「生活交通ネットワーク計画策定委員会」は、町内を走るバス利用の現状を調べるため、委員らが乗り込んで乗客にアンケートを取っている。



調査結果を交通体系の計画作りに生かす。委員は「効率的で交通弱者に優しいシステムを考えたい」と話している。

委員会は町や和歌山大学、バス・タクシー会社、町自治連絡協議会、町社会福祉協議会などの関係者19人でつくる。本年度中に交通体系計画を完成させる。

<目的>

都市内交通空白地域の解消に向けた住民主導型交通システムの形成

<具体的には>

- ・有功地区をはじめとする市全域における福祉有償運送の導入に向けた取り組み
- ・産官民学による和歌山市地域公共交通会議の設置と、そのもとで、交通空白解消施策の推進

福祉有償運送があれば・・・

こんなとき	どんな手段で動く？
<p>要介護の認定を受けている人が、通院するとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネさんを通し、介護保険の適用を受け、介護タクシーを使えば往復数百円～でOK。
<p>要介護の認定を受けている人が、買い物をするときや、趣味の教室へ通うとき、あるいはちょっとお洒落をしてレストランへ行くとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー(一般、福祉、介護)でもいいが介護保険適用外のため、一般的なタクシー運賃を払わねばならない。 ・かといってバスは使いにくい。駅も遠い。 ・知人や家族、親戚に送迎を頼むと気兼ねする。 ・福祉有償運送なら、一般的なタクシーの半額以下でOK。ただし会員制や予約制など制約有
<p>要介護認定は受けていないが、身体や精神、内部などに障がいを持つ人が、通院、買い物、レジャー等をするとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
<p>要支援(要介護Ⅰの一步手前)の認定を受けているなど、1人では外出が困難な人が通院、買い物、レジャー等をするとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同上 ・ただし「1人では外出が困難な」の解釈は各市町村で微妙に違うことも。
<p>1人で元気に外出できる高齢者が・・・</p> <div data-bbox="386 1113 859 1306" style="border: 2px solid yellow; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: red; font-weight: bold;"> <p>こういった人々には別の手段で対応</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉有償運送の会員になれない(後述) ・バスや徒歩、自転車等を利用し自力で動く ・しかし六十谷の団地にはバスがなく急坂 →バス会社や市に路線開設を働きかけるか 地域住民が「住民バス」を走らせては？
<p>障がいを持たない妊産婦、元気な子ども など</p>	<p>同上</p>

福祉有償運送でこういった人々を救うことが可能

和歌山市での成果

<福祉有償運送>

- ・勉強会の開催(実務面の専門家を招いて)や先進地視察
- ・1団体がNPO法人格を取得(福祉有償運送実施の準備として)
- ・市に対する「福祉有償運送運営協議会」設置の働きかけ

<都市内交通空白解消(交通計画策定と戦略的施策展開)>

- ・和歌山市地域公共交通会議の設置(H23.6)・・・民産官学が参画

・主な設置目的

- 1) 市民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保
- 2) 旅客の利便の増進
- 3) 地域の実情に即した輸送サービスの実現に向けた協議

・具体的な取り組み

- 1) 幹線・支線システムの導入に向けた検討
- 2) 路線評価システムの構築
- 3) 地域が主体となって運行する「地域バス」導入
- 4) バス利便性向上策の検討

- ・和歌山地域経済研究機構「交通まちづくり研究会」設置(H23.4～)

受託研究を募集しています

- ・地域が抱える交通課題の解消に貢献すべく、自治体やNPO等からの研究委託に応じています。
- ・営利企業等に依頼するよりも格段に安い費用での受託が可能です。
- ・受託件数を年に1～2件程度までに絞ることで、1件1件にしっかりと時間・手間をかけることができます。

こんな課題を解決します

- ・交通計画や生活交通ネットワーク計画等を立案したい
- ・鉄道やバスの維持・活性化方策を考えたい
- ・地域の公共交通網(路線バス、コミュニティバス、スクールバス、福祉交通等)を再編したい
- ・地域の交通課題を「見える化」したい
- ・地域住民や利用者を対象とするアンケート調査をしたい
- ・過疎地域のバスの需要予測や採算性分析、集落間の平等性などの分析を行いたい
- ・モビリティ・マネジメントを企画・実施したい
- ・通学路や生活道路の交通安全対策を考えたい
- ・「買い物難民問題」の改善策を考えたい
- ・空港・港湾や、臨空・臨海大規模未利用地を活用した地域の活性化策を考えたい
- ・その他、何なりとお声がけください

ここ数年の主な受託実績

- かつらぎ町地域公共交通の調査研究
(スクールバスも含めた地域公共交通体系の再編)
- 紀の川市デマンド型交通導入調査
- 生活交通に関する事例の収集・分析と継続的な支援体制の構築
(県内全市町村を対象に実施。県の施策に活用された)
- 伊賀鉄道 子ども乗り方教室 パンフレット作成
(伊賀鉄道等より受託。毎年実施され、親子に好評)
- 和歌山市内における公共交通利用状況調査
- 紀の川市公共交通計画等策定基礎調査
- 時刻表へのモビリティ・マネジメント型コラム掲載
(伊賀市より受託)
- 和歌山都市圏におけるモビリティ・マネジメント社会実験
(通勤における車利用を抑制。環境・健康等に効果)

通学路の交通安全に関する受託研究・事業の募集

当研究室への委託で、次のような調査研究事業が可能です。



1) 地区の課題の調査

- ・交通量データや交通事故データ、住民意識調査、通学生からの意見聴取、「ヒヤリ点検(住民と一緒に現地調査)」などにより、問題点を定量化し、地区の課題を明らかにします。
- ・GIS(地理情報システム)等を駆使して、問題箇所を地図上に分かりやすく示すなどの「見える化」を行います。

2) 対策案の提示

- ・関係者と議論しながら、地区の課題に見合った目標を設定します。
- ・目標を達成するために、地区の特徴に応じた対策案を提示し、関係者と議論しながらよりよい案としていきます。
- ・対策案の効果を確認するための社会実験を企画立案します。

3) 対策の効果の確認

- ・実施した対策や社会実験の効果を可能な限り定量的に把握します。
- ・対策に問題がありと判明した場合は、見直し案を提示します。